

## 安全装備品と消防活動

熊本県あさぎり町消防団

### 1 はじめに

あさぎり町は熊本県南部、球磨盆地の中央に位置し、南は宮崎県えびの市と小林市に接しています。総面積は159.49km<sup>2</sup>（熊本県域の約2.15%）で約19%が農地、約66%が山林となっており、南北22.5km、東西11.2kmで、南北に長い楕円形のような形をしています。町内を日本三急流のひとつに数えられている球磨川が東西に走っています。

地勢は、盆地の中央部分を縦割りにする形で町の北と南側が山間部となっており、両側から流れ込む球磨川の支流に沿った形で緩やかな平地を形成しています。

あさぎり町の気候は、比較的温暖多雨となっ

ていますが、盆地特有の内陸性気候となっており、年間を通じて霧の発生が多い地域でもあり、『あさぎり町』という町名の由来もここから来ております。

本町の基幹産業は、農業であり、球磨川流域に広がる水田地帯を中心とする平坦地部分とその周辺の畑地帯からなる中山間部分に分けられ、それぞれ地域の特性を活かした農業が営まれています。

農業の経営形態としては、基幹作物である水稲と畜産（肉用牛・酪農）、工芸作物、施設野菜等を組み合わせた複合経営が行われており、特に工芸作物である葉タバコは、全国でも有数の生産地となっております。



天空に咲く「遠山桜」



出初式



ポンプ放水競技

## 2 あさぎり町消防団の紹介

当町の消防団は、町村合併以前は、上村、免田町、岡原村、須恵村、深田村の旧町村ごとに消防団を組織しておりましたが、平成15年4月の町制施行により、各町村の消防団が統合され、「あさぎり町消防団」が結団されております。現在は、1本部、14分団の条例定数720名で組織されており、人口に対する団員数の割合は熊本県内でも上位に位置します。本部には団長1名、副団長2名、旧町村ごとの団員を統括する指揮隊長5名のもと、分団長14名、副分団長14名、部長41名（ラッパ長含む）、班長200名及び団員401名の合計678名で構成されています。

消防団の主な活動としては、年初めの出初式に始まり、春・秋の火災予防運動期間中における防火パレード、各戸の防火点検、早朝や夜間の災害を想定した非常呼集訓練、梅雨前には土砂崩れ等の危険箇所調査、土のう作り、年末警

戒等が挙げられます。そのほか、毎月1回の機器点検、水利の点検・清掃を実施しており、有事の際に備え日頃から万全の体制をとっています。さらに、行政区ごとで組織する自主防災組織の訓練にも積極的に参加し、消火器や消火栓、AED等の取扱について指導を行っております。

また、人吉球磨地方独自の取り組みとして、消防団員の技能向上を目的とした消防ラッパ吹奏競技大会やポンプ放水競技大会にも出場しております。

## 3 安全装備品等助成事業の活用

あさぎり町ではこれまで、旧町村ごとに整備された携帯型無線機（トランシーバー）を使用してきましたが、旧式であるとともに老朽化のため送受信の感度が悪く、更には型式が異なるため消防団全体での活動の際には、本部からの迅速・的確な指示が届かないという課題がありました。町としても団員からの強い要望もあり、



消防ラッパ吹奏大会



消火栓取扱指導①



消火栓取扱指導②

災害現場での消防団員の安全を確保するため、早期の携帯型無線機の整備が必要と考え、平成21年度から段階的に整備を行ってきました。しかし、新たに整備するとなると多額の予算が必要となるため、年に数10台の整備に留まっておりました。こうした中、県から安全装備品整備等助成事業の照会があったため、消防団幹部会にて検討後、残りの必要数量を要望することとしました。当事業で整備した携帯型無線機を含め現時点で本部8台、分団長14台、各部及び班2台ずつの82台、役場8台の合計112台を整備しております。

機器整備後まもなく、前日の夜から70代女性が行方不明との連絡が入り、平日にも係わらず154名の団員が駆けつけ、その1時間半後には無事に救出するという事案がありました。これはひとえに本部からの適切な指示・命令等の情報が迅速に団員へ伝達できた結果だと思っております。今後も実災害は元より訓練時におい

て活用していくことで、消防団員の安全な活動が確保できるものと期待しているところです。

#### 4 今後の安全への取り組みについて

公務災害防止のためには、安全装備品の充実とともに、団員自らの安全に関する意識向上が必要であると考えます。また、今後ますます消防団員の高齢化が進む中で、この問題をどのように対処するかが大きな課題です。

今後は、夜間の災害現場での活動に備え、ヘッドライトや携帯用投光器、反射チョッキなど、消防基金の安全装備品整備等助成事業を更に活用し整備を進めたいと考えています。

また、消防基金が実施している「S-KYT研修」、「消防団員安全管理セミナー」、「消防団員健康セミナー」等を定期的に受講し、団員自らが安全意識を高めることで、公務災害の防止に努めていきたいと考えています。



梅雨期に備えた土のう作り①



携帯型無線機



梅雨期に備えた土のう作り②



無線機送受信確認